町畑・吉治下遺跡発掘調査 現地説明会資料

令和３年11月20日（土）13：00～15:00　　福島市 文化振興課
公益財団法人福島市振興公社

調査場所　福島市平石字町畑地内
調査面積　１次調査：4,943㎡
　　２次調査：5,179㎡
（本年度）３次調査：約2,000㎡
調査期間　３次調査：令和３年５月18日～令和４年１月31日（予定）
調査主体　福島市
調査機関　公益財団法人福島市振興公社

はじめに

町畑・吉治下遺跡では、福島西道路改築事業に伴う発掘調査を令和元年６月から実施しています。また、今回の現地説明会は、周知のための一環として実施するものです。

本遺跡は、松川丘陵北側裾部の平石地区に立地しています。遺跡周辺の伝承として、信夫佐藤庄司（佐藤基治）軍と源頼朝軍が争った（石那坂の戦い）地として伝わっています。また、福島大学付近から尾根伝いに古代の官道（東山道・奥大道）が通じて字町畑、字吉治下付近が福島盆地への降り口であったとも近年の研究で推察されています。

今回の調査では、令和元年度で調査を実施した区域の中央部で調査を実施しました。

１・２次調査

１次調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの集落を形成する遺構が多数みつかりました。また、鍛冶に関連する竪穴住居跡や遺物もみつかっています。流路跡からは墨書土器を含む数多くの土器が出土しました。中世の土壙墓からは良好な形で烏帽子がみつかりました。

令和２年度の調査では、近世頃の墓跡や溝跡がみつかったほか、後期旧石器時代の石器がまとまって出土しました。出土状況、石器の器種から考えると調査区域外にも石器が出土する範囲が広がっていると考えられます。

１次調査でみつかった烏帽子を伴う土壙墓

↑２次調査の旧石器調査風景

←出土した旧石器

周辺の遺跡位置図

調査結果

今回の調査では、令和元年度でみつかった奈良・平安時代とほぼ同時期の遺構・遺物が確認されました。また、鎌倉時代・近世の遺構・遺物もみつかっています。

近世

近世は、直径約５ｍ、深さ約１．４ｍの土坑が３基、溝跡２条みつかりました。土坑からは、岸窯系陶器などの陶磁器のほか、漆器椀や木鉢などの木製品が出土しました。

鎌倉時代

鎌倉時代は、土坑２基、ピット３基みつかりました。土坑からは、かわらけの破片が多くみつかっています。また、自然流路跡の上の堆積土から鎌倉時代に位置付けられる陶磁器が出土しました。

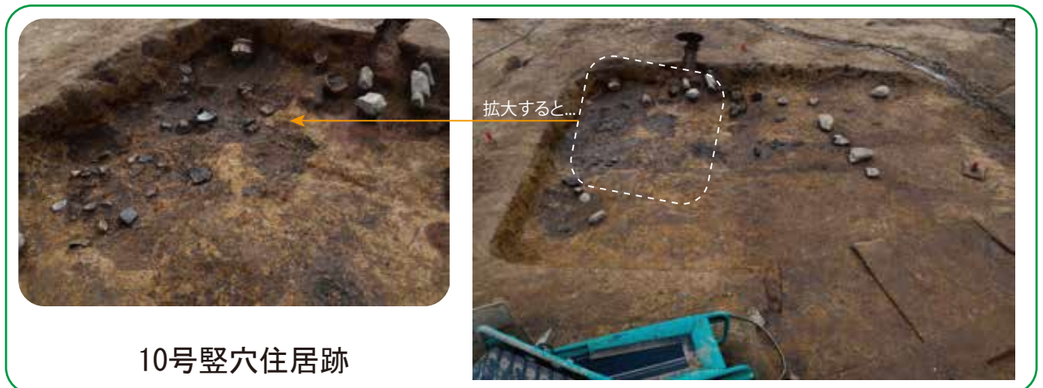
奈良・平安

奈良・平安時代は、遺構の確認数・出土遺物が最も多くみつかりました。現在のところ、遺構は、竪穴住居跡17軒、掘立柱建物跡２棟、自然流路跡１条、土坑50基、溝跡15条、ピット163基みつかっています。

多数の竪穴住居跡で鍛冶に関連する羽口や鉄滓、鍛造剥片がみつかりました。また、住居内に伴う貯蔵穴からは、数多くの土師器・須恵器が出土しました。土器は９世紀後半頃に位置付けられます。自然流路跡は、今回の調査でもみつかっており、現在のところ、８～９世紀頃の墨書土器を含む多数の土器や、曲げ物の底板や加工材などの木製品、馬の骨と思われる獣骨もみつかっています。また、福島市内では出土例の無い獣足を模った土器の破片も出土しました。

１次調査と今回の調査を合わせて考えると、①竪穴住居跡・掘立柱建物跡は自然流路跡と軸方向が同じで、自然流路を意識した建物配置となっています。そして、自然流路跡の岸辺に居住域があり、その外側に掘立柱建物群が配置される集落であることが分かります。②出土遺物をみると、竪穴住居跡の多くは鍛冶に関連する遺物が出土しており、鍛冶が盛んに行われたと考えられます。自然流路跡からは、祭祀で使用したと考えられる墨書土器が数多くみつかっていることが本遺跡の特徴として挙げられます。

９号竪穴住居跡



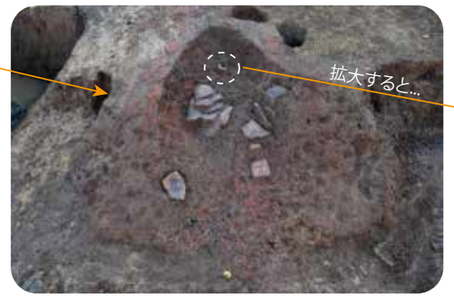
10号竪穴住居跡

令和元・３年度調査区の全景

自然流路跡

竪穴住居跡

掘立建物跡



12号竪穴住居跡

①墨書土器「子□□」

③獣足（壺・瓶の足？）

②墨書土器「大」

④羽口

⑤椀形滓